

第四十回 顎関節症と血流関係

例をあげますと

体の正中の下部である、前立腺・膀胱・子宮等に異常があるならば、必ず頭のテッペン（頭頂骨）の真中を

前後に走っている矢状縫合の後に異常反応をおこしているということです。（心臓・肺・食道の異常は矢状縫合の前に異常）

この矢状縫合の異常箇所を始点として、天びんの様に横片方に骨がふくらみ、もう一方の反対側はくぼみがおこります。

骨がふくらむ方に骨の下的大脑に血流が多く流れ膨らみ、反対側のくぼんでいるところは血の流れが少なく虚血現象をおこしていることとなります。

これを歯の咬み合せの高さで申しますと、骨が膨らんでいる側の奥歯の咬み合せが高く、骨のくぼんでいるところの奥歯の咬み合せの高さが低いことを意味します。このように左右の歯の咬み合せのバランスが崩れ、さらに血管の悪条件により脳の出血性、虚血性の病気を引き起こすものです。（実際は左右の歯だけでなく、片側はなんともなく同側の前後又は反対側の対角線の歯のバランスの崩れもあります。）

顎関節症をおこしていると、頭蓋骨、首の骨、背骨、骨盤、足のヒザ…の骨が振れ等をおこし、又内臓始め筋肉も血流の良いところ悪いところがあるものですが、足の短足側の歯、又は咬み合せの低い歯にガーゼ、又は綿棒を咬ませて高くすると、内臓始め頭の先から足の先迄、今迄血流の悪かったところが急に血が流れ、逆に血の流れが良かったところが悪くなり、骨も頭蓋骨から足先まで、逆方向に振れ、左右の足の長さも逆になるものです。

このように歯の咬み合せを変える事により全身に大きな変化をおこすものですが、歯の矯正治療をしたり、ただの歯の咬み合せの調整くらいではそれ程たいしたことはないもので逆に悪くなったりするものです。

顎関節症を治す時には自覚症状だけをとればよいのではなく、顎関節の関節円板を正常な位置にもってきて、それから歯の咬み合せの調節です。

その時に頭の「百会」と「印堂」の2つの異常反応を無くさなければなりません。

「百会」は左右の耳とを結んだ線上と頭のテッペン（頭頂骨）の真中の矢状縫合と交わる場所です。異常反応をおこしていると、鼻水が出やすく、そして首の骨が生理的湾曲になっていながら頭の後の後頭骨と首の後ろが凝り、そして背骨の上から7番目から12番目迄（背骨から各内臓へ神経が走っている脾臓・肝臓・副腎・腸・腎臓・肛門）の間の内臓への血流始め、背骨・手腕に異常反応をおこ

し、血液障害を起こしているものです。

そしてもう1つは、おでこの真中である印堂(チャクラの…)に異常反応をおこしますと、おでこの頭痛、視力の低下、鼻づまり、喉もとがつまる、胸が…。これらは頭の前のおでこから首の前をとり、背骨の上から6番目まで、そして腰椎の1番目から5番目迄、そして足先迄の骨及び血流不足の異常反応をおこすものです。先程述べた前立腺、膀胱、子宮、足の冷性、ふくらはぎが痛い印堂に異常反応をおこしているものです。

ところが同じ人で「百会」と「印堂」も2つ共に異常反応をおこしている場合は頭の後から首にかけて片側だけが血流障害で凝り、反対側の片側だけ顔の前のおでこから脳のあたりまで片側だけ血流障害の異常反応をおこすものです。

つまりおでこの頭痛も片側、視力は片側だけ特に悪く、鼻づまりも片側ということになります。

以下同様に内臓も片側、足も片側だけの血行障害をおこします。

人間の体でバランスをとるのは顎関節と骨盤の2ヶ所といわれています。骨盤を治すのは容易なことですが、顎関節を治すのは数十個の頭蓋骨の骨及び歯の咬み合せの高さのバランスだけでは治らないものです。(ただし自覚症状はとれます。)

そこでさらに顎関節の円板を正常にもってきてから、もう1度歯の咬み合せの調節することで初めて「百会」と「印堂」の異常反応が無くなるものです。

つまり、体全体の血流が良くなるというだけでなく、免疫力、治癒力を向上させ、色々な病気の抑制にさせるものです。

「百会(針の…)」と「印堂(チャクラの…)」とを比較すると血流障害(冷え症)は全く互いに逆になっているものですが、手の指と足の指の血流障害(冷え症)だけが共に反応がでるものです。鼻水が出る、首の後が痛い・凝る、肩・腕の痛み、肝臓・副腎・腸腎臓・肛門に異常反応が出れば「百会」に異常。

おでこが痛い、視力が悪い、鼻が詰まる。胃・膵臓・肺・心臓・前立腺、子宮、ぼうこう、等異常反応が出れば「印堂」に異常。

視力が左右共に悪いが左右さがあるとゆうのは「百会」と「印堂」の両方が異常反応あるということです。

又、伸び切ったゴムひもと弾力性のあるゴムひものように、例えば足の膝の関節の骨と骨がズレて痛い場合、体全体の血の流れを良くすれば関節の周囲の筋肉も弾力性で関節の骨が元の状態に戻るものです。内臓も血の流れを良くすれば治癒力を増すものです。その為に顎関節症を治した後、「百会」と「印堂」の異常反応をとる為に、歯の噛み合わせの調節が重要となります。